

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

資料1-2

令和 年 月 日

協議会名: 東郷町地域公共交通会議

評価対象事業名: 地域内フィーダ系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
【補助対象となる事業者名等の名称を記載】	【系統名・航路名・設備名、運行(航)区間、整備内容等を記載(陸上交通に係る確保維持事業において、車両減価償却費等及び公有民営方式車両購入費に係る国庫補助金の交付を受けている場合、離島航路に係る確保維持事業において離島航路構造改革補助(調査検討の経費を除く。)を受けている場合は、その旨記載)】	【事業評価の評価対象期間において、前回の事業評価結果をどのように生活交通確保維持改善計画に反映させた上で事業を実施したかを記載】	A・B・C評価 【計画に基づく事業が適切に実施されたかを記載。計画どおり実施されなかった場合には、理由等記載】	A・B・C評価 【計画に位置付けられた定量的な目標・効果が達成されたかを、目標ごとに記載。目標・効果が達成できなかった場合には、理由等を分析の上記載】	【事業の今後の改善点及びより適切な目標を記載。改善策は、事業者の取り組みだけでなく、地域の取り組みについて広く記載。特に、評価結果を生活交通確保維持改善計画にどのように反映させるか(方向性又は具体的な内容)を必ず記載すること。】 ※なお、当該年度で事業が完了した場合はその旨記載
瀬戸自動車運送株式会社 南北コース左・右回り	いこまい館～日進駅～いこまい館	セントラル開発を見据えた新たな公共交通網の構築に向け、近隣市及び公共交通事業者とバスターミナルの乗入れについて協議。 公共交通利用促進策として、イベント時でのPRやチラシの配布やバスの乗り方教室を実施するとともに、巡回バスのGTFS化により経路検索を実現。 近隣市や交通事業者との連携による南北軸を幹線軸とするネットワークの構築として、公共交通基礎調査の結果を分析し、尾三地区の現状や課題などについて協議。	A 遅延などによる運休はなく、事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	A 事業が計画に位置づけられた目標を達成した。 ■令和元年度目標 ・目標利用者 46,500人 ■令和元年度実績 ・利用者 47,907人 (参考) ■輸送量に関するその他事項 ・運行回数 3,001回 ■収支率に関する事項 ・令和元年度収入額実績値 1,051,926円(補助金交付申請書より) ・令和元年度経常経費 15,696,920円(補助金交付申請書より) ・令和元年度収支率 $1,051,926円 \div 15,696,920円 = 0.07$	令和元年度は、全路線において利用者及び1便当たりの利用者数が前年度を上回っているため、今後も引き続きバス利用促進の啓発に努める。さらに、バスターミナルを活用し、交通結節点としての機能を果たすよう巡回バスの再編を実施するとともに、バスロケーションシステム導入による利便性の向上に努める。 また、近隣市のコミュニティバスの乗入れの協議やバスターミナルを活用した、近隣市と連携した広域的な公共交通ネットワークについて検討していく。